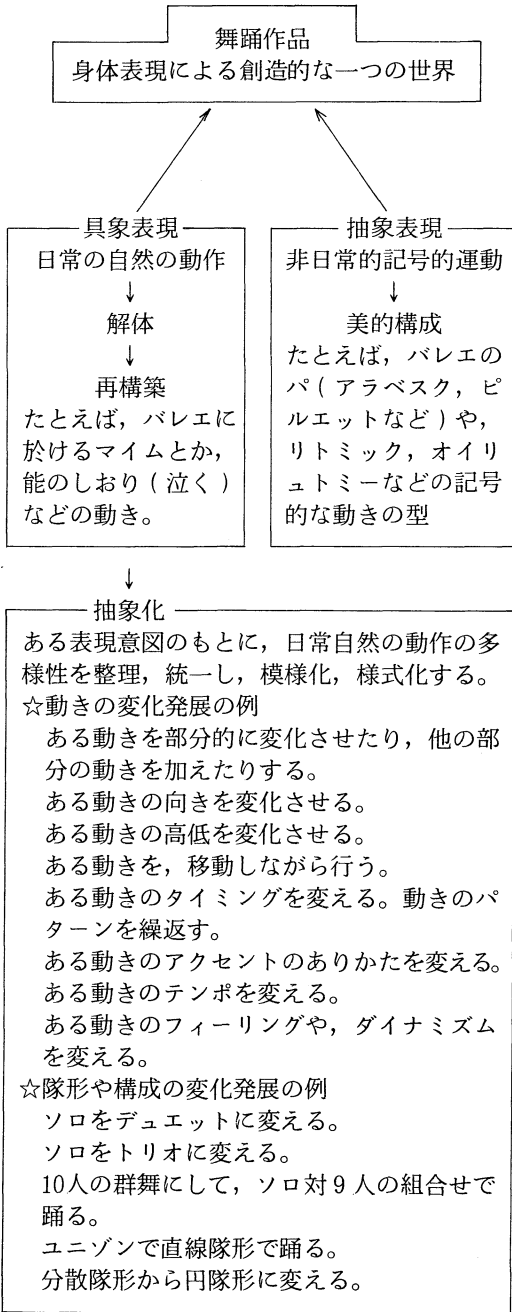


〈動き〉が舞踊になるとき

金井 芙三枝

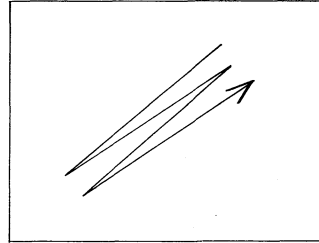


1 〈動き〉が舞踊になるとき

まず、大学生をモデルにして撮影した VTR をみていただきます。

この人たちは、日常の自然の動作でガラスをふいています。ガラスをふく動作をよく見ると、ずいぶん複雑なことをしているものですね。

このガラスをふくという動作の中から一つの動きをとり出しました。



左図のように、手を右斜上と左斜下を上下往復させる動きです。

多様性の中から特徴あるこの一つの動きをとり出しモチーフとし、変

化発展させていくわけですが、このように日常動作が解体され、再構築される段階から、〈舞踊〉になります。それは、この3人の学生たちのように下手であっても、〈舞踊〉です。

VTRによって3人の学生の舞踊をみていきましょう。

- モチーフの動きを何度も反復しています。
- 休止符も入れました。
- モチーフの動きを右手で行いながら、左手でガラスをおさえる動作も加えました。
- モチーフの動きをしながら、位置の移動を行っています。
- 今までユニゾンで動いていたものが、少し変化しました。
- 列になって移動しています。
- 密集隊形になって止まりました。
- テンポが速くなりました。
- モチーフの動きをしながら脚の動きもしています。

2 〈動き〉がグレード・アップしていくとき

若手舞踊家の小林久美子に同じモチーフで、学生たちの創作した作品を踊っていただきます。小林は現代舞踊協会の新人賞を受賞しています。

- 脚もきれいにあがっているし、動きのキレもよいし、アクセントもハッキリしてきました。
- 楽しくガラスみがきをしているような表現がみえてきました。（今までは未熟な学生の踊りなので、デレデレ動いているだけで、かろうじてガラスみがきの踊りだな、と分かる程度でしたが、同じ振りでも、踊り手が替われば、楽しくみられるようになってきました。
- 小林久美子が、アレンジをして、リズムを変えたり、細部に工夫をこらしたのを見ましょう。今度は面白いだけでなく、小林の個性が見えて来ました。

〈上記の表を基に、デモンストレーションを試みた。以下は、その動きを筆者が解説しているものを記す。〉